

平成31年度

仙北市

「全国学力・学習状況調査」

結果分析・改善委員会

報 告 書

令和元年12月

目 次

I	報告書の作成にあたって	1
II	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	実施主体	2
3	参加主体	2
4	調査の対象	2
5	調査事項及び手法	2
6	調査の方式	3
7	調査期日	3
8	4月18日に調査を実施した児童生徒数・学校数	3
III	結果	4
1	教科に関する調査の結果	4
(1)	概要	4
(2)	設問分類・区分別集計結果から	6
(3)	各設問の集計結果から	9
2	児童生徒質問紙調査の結果	15
(1)	概要	15
(2)	小学校6年生にみられる望ましい傾向	15
(3)	小学校6年生にみられる課題とされる傾向	18
(3)	中学校3年生にみられる望ましい傾向	20
(5)	中学校3年生にみられる課題とされる傾向	23
(6)	現中学校3年生の小学校6年生時との経年比較による成果	26
(7)	現中学校3年生の小学校6年生時との経年比較による課題	27
(8)	仙北市の目指す子ども像に関わる3年間の比較	29
3	学校質問紙調査の結果	33
(1)	概要	33
(2)	成果と考えられる項目	33
(3)	今後の検討課題と考えられる項目項目	34
IV	改善の方法	36
1	全体的な取組として	36
(1)	指導改善の具体策	38
(2)	仙北市学力向上施策の焦点化	40
(3)	各中学校区の情報交換から	40
(4)	共通実践すべき具体的方策	41
2	学年・教科・区分・設問ごとの具体的な改善の方策	42
3	改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について	43
V	参考資料	44
資料1	「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱	44
資料2	平成31年度「仙北市全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿	47

I 報告書の作成にあたって

本報告書は、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成した。
報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

Ⅱ 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

【小学校調査】

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

5 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査

ア 小学校に対する調査では、国語及び算数を実施

イ 中学校に対する調査では、国語、数学及び英語を実施

ウ 出題範囲は調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

1)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

2)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善するなどに関わる内容

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

- 6 調査の方式 悉皆調査
- 7 調査期日 平成31年4月18日（木）
- 8 4月18日に調査を実施した児童生徒数・学校数

小学校児童数	児 童 数（人）		
	国語	算数	質問紙
全国（公立）	1,028,203	1,028,177	
秋田県（公立）	6,960	6,959	
仙北市教育委員会	175	175	175

中学校生徒数	生 徒 数（人）			
	国語	数学	英語	質問紙
全国（公立）	938,797	938,887	938,888	
秋田県（公立）	7,242	7,237	7,236	
仙北市教育委員会	182	182	182	182

調査実施校数	4月18日に調査を実施した小学校 特別支援学校小学部	4月18日に調査を実施した中学校 中等教育学校 特別支援学校中学部
全国（公立）	19,263校	9,513校
全国（国立）	75校	77校
全国（私立）	117校	360校
合計	19,455校	9,950校
仙北市教育委員会	7校	5校

Ⅲ 結果

- ※ 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、英語の3教科であり、また、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではない。従って、本調査の結果については児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校等における教育活動の一側面にすぎないことに留意する必要がある。
- ※ 「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第2条に基づき、教科に関する調査結果の数値による公表は行わない。〈表2〉の階層区分と表現による公表としている。

1 教科に関する調査の結果

(1) 概要

本調査における全国調査校（以下、全国）及び秋田県調査校（以下、秋田県）の平均正答率と仙北市調査校（以下、仙北市）の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学・英語のそれぞれで比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、仙北市の小学校6年生の国語、算数の学習状況は「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。
- ② 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、中学校3年生の国語、数学、英語の学習状況は「概ね満足できる状況」である。

【課題】

- ① 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年生国語、算数において仙北市が若干下回っている。
- ② 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年生国語、数学、英語において仙北市が下回っている。
- ③ 中学校3年生が小学校6年生時の平均正答率と比較した場合、全ての教科において全国平均を上回る割合は、ほぼ同程度となっている。

〈表 1〉：全国及び秋田県の平均正答率との比較（教科別）

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6年	国語	全国(公立)	63.8%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	74%	概ね満足できる状況
	算数	全国(公立)	66.6%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	70%	概ね満足できる状況
中学校 3年	国語	全国(公立)	72.8%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	78%	概ね満足できる状況
	数学	全国(公立)	59.8%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	65%	概ね満足できる状況
	英語	全国(公立)	56.0%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	57%	概ね満足できる状況

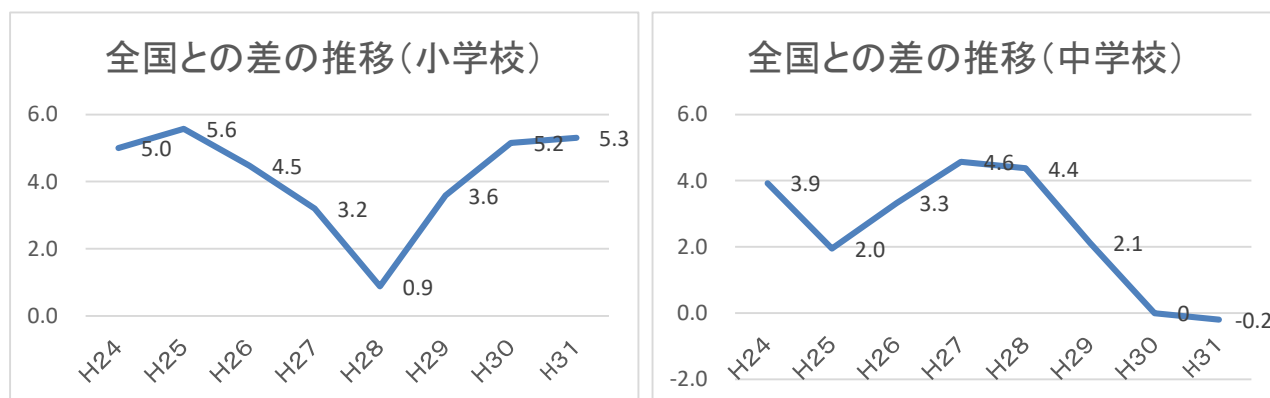
※〈表 1〉の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、〈表 2〉の表現にしたがって示した。

〈表 2〉：〈表 1〉の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%未満～-6%より大きい状況であるもの	概ね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6%以下であるもの	改善が必要な状況

※〈表 2〉は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第 3 条（別表 2）による。

〈グラフ 1〉：全国と仙北市との平均正答率の差の推移（実施した全教科の平均）



(2) 設問分類・区分別集計結果から

本調査における設問を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」で分類し、全国及び秋田県と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 全国と仙北市の平均正答率の比較では、小学校6年、中学校3年ともに国語、算数・数学、英語の全ての区分において、「概ね満足できる状況」あるいは「十分満足できる状況」である。
- ② 同様に全国と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年国語では、「指導要領の領域」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」の「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」の「選択式」「短答式」「記述式」が「十分満足できる状況」である。
 - イ) 小学校6年算数では、「問題形式」の「記述式」が「十分満足できる状況」である。
 - ウ) 中学3年国語では、全ての区分において、「概ね満足できる状況」あるいは「十分満足できる状況」にある。
 - エ) 中学校3年数学では、全ての区分において「概ね満足できる状況」にある。
 - オ) 中学校3年英語では、「指導要領の領域」の「聞くこと」「読むこと」、「評価の観点」の「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」、「問題形式」の「選択式」「記述式」が「概ね満足できる状況」にある。
- ③ 秋田県と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年国語では、「学習指導要領の領域等」の「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」の「話す・聞く能力」が県の平均正答率よりも上回っている。
 - イ) 小学校6年算数では、「問題形式」の「記述式」が県の平均正答率よりも上回っている。
 - ウ) 中学校3年国語では、「問題形式」の「短答式」が県の平均正答率よりも上回っている。
 - エ) 中学校3年英語では、「評価の観点」の「外国語表現の能力」が県の平均正答率よりも上回っている。

【課題】

- ① 秋田県と仙北市の平均正答率を比較した場合、次のような課題がある。
 - ア) 小学校6年国語、算数では、ほとんどの区分で平均正答率が若干下回っている。
 - イ) 中学校3年国語では、「学習指導要領の領域」の「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」の「話す・聞く能力」が「改善が必要な状況」であり課題である。
 - ウ) 中学校3年数学では、「指導要領の領域」の「数と式」「関数」、「評価の観点」の「数学的な技能」、「問題形式」の「短答式」が「改善が必要な状況」であり課題がある。
 - エ) 中学校3年英語では、「指導要領の領域」の「書くこと」、「評価の観点」の「言語や文化についての知識・理解」、「問題形式」の「短答式」が「改善が必要な状況」であり課題である。特に「書くこと」と「言語や文化についての知識・理解」が複合された場合、正答率が低くなっている。

〈表 3－(1)〉：「小学校 6 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	3	81.8	72.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書くこと	3	63.0	54.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	3	87.7	81.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	67.7	53.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評価 の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	69.0	57.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	3	81.8	72.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	書く能力	3	63.0	54.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	3	87.8	81.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	5	67.7	53.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問題 形式	選択式	7	81.9	75.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	4	63.9	48.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	3	69.0	57.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

〈表 3－(2)〉：「小学校 6 年算数」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	数と計算	7	68.7	63.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	量と測定	3	55.1	52.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	2	80.0	76.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	7	72.4	68.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の 観点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	8	66.1	62.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量や図形についての技能	4	79.3	73.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	2	69.9	70.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	5	77.4	75.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	5	78.4	72.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	4	51.8	47.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(3)〉：「中学校 3 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	3	76.9	70.2	改善を要する状況	概ね満足できる状況
	書くこと	2	88.3	82.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	3	77.3	72.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	70.7	67.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	3	83.0	76.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話す・聞く能力	3	76.9	70.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	書く能力	2	88.3	82.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	3	77.3	72.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	2	70.7	67.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	6	78.6	73.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	1	60.0	56.8	十分満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	3	83.0	76.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(4)〉：「中学校 3 年数学」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	数と式	5	69.4	63.8	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	図形	4	76.7	72.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	関数	4	44.2	40.8	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	資料の活用	4	62.5	56.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	8	56.5	51.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数学的な技能	3	67.6	63.9	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	5	76.2	71.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	5	64.2	60.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	7	71.0	66.6	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	記述式	4	54.6	47.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(5)〉：「中学校 3 年 英語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 要 域 領	聞くこと	7	69.1	67.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	58.4	55.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	8	45.5	45.8	改善が必要な状況	改善が必要な状況
評 価 の 観 点	コミュニケーション への関心・意欲・態度	0				
	外国語表現の能力	1	2.0	1.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	外国語理解の能力	6	46.8	44.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語や文化 についての知識・理解	14	65.4	64.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	13	72.7	71.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	5	45.7	45.2	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	記述式	3	8.0	6.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

(3)各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて示す。

①小学校6年「国語」について

ア)「設問番号 1 一」「公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する」では、「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「書く能力」、「知識・活用の区分」では「知識及び活用」「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 1 三」「公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く」では、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「書く能力」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号 1 四 (1) ア」 「公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)」では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「知識・活用の区分」では「知識・活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号 1 四 (1) ウ」 「公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)」では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「知識・活用の区分」では「知識・活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

オ) 「設問番号 1 四 (2)」 「公衆電話について調べたことを【報告する文章】の 1 文を、接続語「そこで」を使って 2 文に分けて書き直す」では、「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「知識・活用の区分」では「知識・活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 図表やグラフを用いて効果的に書くことができるようにする。
- ◆ 自分の考えを支える理由や事例を明確にすることができるようにする。
- ◆ 文脈に沿って、正しい漢字を書くことができるようにする。
- ◆ 一文の長さを意識して、分かりやすく伝わるように文を分けて書くことができるようにする。

②小学校6年「算数」について

ア) 「設問番号 2 (4)」 「洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する」では、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる小数の除法の意味について理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」「数量関係」、「評価の観点」では「数量や図形についての技能」、「知識・活用の区分」では「知識・活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 3 (1)」 $350 - 97$ について、引く数の 97 を 100 にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く」では、「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号 3 (2)」 $350 - 97$ についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く」では、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

エ)「設問番号 3 (3)」 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する」では、「示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

オ)「設問番号 3 (4)」 $1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ」では、「示された除法の式の意味を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」「数量関係」、「評価の観点」では「数量や図形についての知識・理解」、「知識・活用の区分」では「知識・活用」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにする
- ◆ 数量の関係に着目し、計算を能率的にするために工夫することができるようにする
- ◆ 計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする
- ◆ 数を多面的にみて、計算を能率的にするために工夫することができるようにする
- ◆ 除法の式の意味を理解できるようにする

③中学校3年「国語」について

ア)「設問番号 2 一」「話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」では、「話し合いの話題や方向を捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと 1 才」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「知識・活用の区分」では「知識及び活用」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 2 二」「話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」では、「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと 1 ウ」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「知識・活用の区分」では「知識及び活用」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号 2 三」「話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていなないこと」について自分の考えを書く」では「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと 1 オ」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

＜指導の改善点＞

- ◆ 参加者全員が話し合いの話題や方向を捉えて話し合うことができるようにする
- ◆ 相手に分かりやすく伝わる表現を用いて話すことができるようにする
- ◆ 話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつことができるようにする

④中学校3年「数学」について

ア)「設問番号 3」「 $\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める」では、「平行移動の意味を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形 1 (1) イ」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「知識・活用の区分」では「知識及び活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 4」「反比例の表から式を求める」では、「反比例の式から、 x と y の関係を式で表すことができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「関数」、「評価の観点」では「数学的な技能」、「知識・活用の区分」では「知識及び活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号 5」「2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表のでる確率を求める」では、「簡単な場合について、確率を求めることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「資料の活用 2 (1) ア」、「評価の観点」では「数学的な技能」、「知識・活用の区分」では「知識及び活用」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ)「設問番号 6 (2)」「冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する」では、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「関数 2 (1) イ、エ」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

オ) 「設問番号 9 (2)」 「連続する 5 つの奇数の和が中央の奇数の 5 倍になることの説明を完成する」では、「事柄が成り立つ理由を説明することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式 2 (1) イ、ウ」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

カ) 「設問番号 9 (3)」 「連続する 4 つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ」では、「総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を自称に即して解釈することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式 2 (1) イ、ウ」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 移動前と移動後の図形を比較して 2 つの図形の関係を読み取ることができるようにする
- ◆ 日常の事象の特徴を、図形の移動を用いて的確に捉えることができるようにする
- ◆ 反比例の表から変化や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を式で表すことができるようにする
- ◆ 具体的な事象について、 x と y の関係を数学的に表すことができるようにする
- ◆ 樹形図や二次元の表などを利用して起こり得るすべての場合を数え上げ、確率を求めることができるようにする
- ◆ 確率を用いて不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断することができるようにする
- ◆ 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする
- ◆ 事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにする

⑤中学校3年「英語」について

ア) 「設問番号 2」 「イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える」では「まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「聞くこと (オ)」、「評価の観点」では「外国語理解の能力」、「知識・活用の区分」では「活用」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号 9 (1) ①及び②」 「文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する」では「文の中で適切に接続詞を用いることができる」に課題がある。

これらの設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと (ア) (イ)」、「評価の観点」では「言語や文化についての知識・理解」、「知識・活用の区分」では「知識」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号 9 (2) ①」 「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く」では「一般動詞の 2 人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと (ア) (イ)」、「評価の観点」では「言語や文化についての知識・理解」、「知識・活用の区分」では「知識」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号 9 (2) ②」 「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く」では「一般動詞の 1 人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の区分等」では「書くこと (ア) (イ)」、「評価の観点」では「言語や文化についての知識・理解」、「知識・活用の区分」では「知識」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

オ) 「設問番号 9 (3) ②」 「与えられた条件に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」では「与えられた情報に基づいて、3 人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の区分等」では「書くこと (ア) (イ)」、「評価の観点」では「言語や文化についての知識・理解」、「知識・活用の区分」では「知識」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

カ) 「設問番号 9 (3) ③」 「与えられた条件に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」では「与えられた情報に基づいて、3 人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の区分等」では「書くこと (ア) (イ)」、「評価の観点」では「言語や文化についての知識・理解」、「知識・活用の区分」では「知識」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ まとまりのある英語を聞いて、話の概要を聞き取ることができるようにする
- ◆ 文の中で適切に接続詞を用いることができるようにする
- ◆ 場面や状況から文の形式や動詞の形 (時制) を適切に判断し、正確に書くことができるようにする
- ◆ 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができるようにする

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、若干の課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向にあると言える。

特に「自己肯定感」「地域や社会との関わり」「基本的生活習慣・学習習慣」に肯定的な回答率が高い傾向が見られた。

(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

小学校6年生の質問事項58項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、90%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問番号	質問事項	肯定的回答率
1	(15)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.3
2	(9)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	97.7
3	(7)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	96.0
4	(38)	国語の勉強は大切だと思いますか	96.0
5	(16)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.5
6	(13)	学校のきまりを守っていますか	95.4
7	(47)	算数の勉強は大切だと思いますか	95.4
8	(49)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	95.4
9	(1)	朝食を毎日食べていますか	94.3
10	(55)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	93.7
11	(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.6

12	(32)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	92.6
13	(40)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6
14	(30)	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	92.5
15	(8)	将来の夢や目標を持っていますか	92.0
16	(54)	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	91.5
17	(5)	自分には、よいところがあると思いますか	90.8
18	(33)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	90.3
19	(52)	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	90.3
20	(53)	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	90.2

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものは次の表のとおりである。(県の割合との比較は参考のために示した。)

NO	質問番号	質問事項	全国比較	県比較
1	(32)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	18.6	3.5
2	(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	18.6	-0.2
3	(33)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	16.9	2.6
4	(31)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	16.6	0.6
5	(23)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	15.5	-0.2

6	(43)	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき，うまく伝わるように理由を示したりするなど，話や文章の組立てを工夫していますか	13.2	0.5
7	(44)	国語の授業で文章や資料を読むとき，目的に応じて，必要な語や文を見つけたり，文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	13.2	0.5
8	(46)	算数の勉強は好きですか	12.5	5.0
9	(35)	5年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか	12.0	2.2
10	(42)	国語の授業では，目的に応じて，自分の考えを話したり書いたりしていますか	11.6	1.9
11	(41)	国語の授業で学習したことを，普段の生活の中で，話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	11.1	0.4
12	(29)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか	11.0	-0.2
13	(10)	難しいことでも，失敗を恐れなくて挑戦していますか	10.7	2.7
14	(37)	国語の勉強は好きですか	10.7	-2.4
15	(57)	解答時間は十分でしたか(国語)	10.4	3.3
16	(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	10.2	-4.4
17	(36)	5年生までに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	10.1	-1.6

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が＋3ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(46)	算数の勉強は好きですか	5.0
2	(32)	あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	3.5
3	(57)	解答時間は十分でしたか（国語）	3.3

(3) 小学校6年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

小学校6年生の質問事項58項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、75%未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(22)	新聞を読んでいますか	21.7
2	(27)	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか（週1回以上）	34.9
3	(25)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	72.6
4	(36)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	72.6
5	(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	73.1
6	(37)	国語の勉強は好きですか	74.9

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	全国比較
1	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	-3.0

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	-5.6

2	(51)	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	-5.3
3	(22)	新聞を読んでいますか	-5.2
4	(4)	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	-5.0
5	(25)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	-4.7
6	(34)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか	-4.5
7	(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	-4.4
8	(14)	人が困っているときは、進んで助けていますか	-3.2

- ◆ 新聞を読んでいる割合は、21.7%であり、前年度と同様に低い。新聞離れに課題が見られる。
- ◆ 起床時刻が不規則な児童が、国や県と比べて多い傾向にある。規則正しい生活を送ることに課題が見られる。
- ◆ 自分の考えを発表したり解決したりしようする意欲において、教科によって大きな差があることが課題と見られる。

(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

中学校3年生の質問事項69項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、90%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(9)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	98.4
2	(16)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.4
3	(13)	学校の規則を守っていますか	97.8
4	(15)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.3
5	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	97.2
6	(27)	学校の部活動に参加していますか	97.2
7	(1)	朝食を毎日食べていますか	95.0
8	(41)	国語の勉強は大切だと思いますか	94.0
9	(11)	学級みんなで話し合っって決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	93.4
10	(50)	数学の勉強は大切だと思いますか	93.4
11	(14)	人が困っているときは、進んで助けていますか	92.8
12	(43)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.8
13	(39)	1, 2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか	92.3
14	(55)	英語の勉強は大切だと思いますか	91.8
15	(33)	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	91.3
16	(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	91.2
17	(57)	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.2

18	(64)	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	91.2
19	(61)	1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	90.7
20	(7)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	90.1

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものは次の表のとおりである。（県の割合との比較は参考のために示した。）

NO	質問番号	質問事項	全国比較	県比較
1	(23)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	28.5	16.9
2	(26)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	24.3	8.3
3	(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	22.7	6.4
4	(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	18.3	-3.1
5	(36)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	17.9	-0.5
6	(34)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	17.1	-6.9
7	(33)	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	16.4	3.7
8	(35)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	15.8	-1.4
9	(32)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	15.7	2.0
10	(39)	1, 2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか	15.7	1.2

11	(66)	1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	13.8	0.5
12	(44)	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	13.0	0.1
13	(47)	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	12.9	-2.1
14	(38)	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	11.8	-2.4
15	(37)	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	11.5	0.7
16	(62)	1, 2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	11.3	-3.8
17	(27)	学校の部活動に参加していますか	10.6	5.5
18	(11)	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	10.6	2.0
19	(21)	読書は好きですか	10.5	1.9
20	(8)	将来の夢や目標を持っていますか	10.2	-0.2
21	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	10.0	4.7
22	(54)	英語の勉強は好きですか	10.0	1.6
23	(45)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	10.0	-2.4

※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校３年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校３年生の肯定的回答の割合を比較して、差が＋３ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(23)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	16.9
2	(26)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	8.3
3	(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	6.4
4	(27)	学校の部活動に参加していますか	5.5
5	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	4.7
6	(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	4.1
7	(20)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか	3.9
8	(52)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	3.8
9	(33)	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	3.7
10	(57)	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	3.1
11	(25)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	3.0

〔５〕中学校３年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

中学校３年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、７５％未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(22)	新聞を読んでいますか	15.9
2	(30)	１，２年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのＩＣＴをどの程度使用しましたか（週１回以上）	35.1

3	(59)	あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	35.2
4	(58)	あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか	41.7
5	(69)	解答時間は十分でしたか（英語）	46.2
6	(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	57.7
7	(49)	数学の勉強は好きですか	60.5
8	(54)	英語の勉強は好きですか	66.0
9	(38)	1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	67.6
10	(25)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	71.5
11	(56)	英語の授業はよく分かりますか	72.0
12	(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	73.1
13	(62)	1，2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	74.2
14	(46)	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	74.2

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	全国比較
1	(69)	解答時間は十分でしたか（英語）	- 16.8
2	(68)	解答時間は十分でしたか（数学）	- 8.3
3	(59)	あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	- 6.1

4	(67)	解答時間は十分でしたか（国語）	- 3.5
---	------	-----------------	-------

※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(34)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	-6.9
2	(42)	国語の授業の内容はよく分かりますか	-6.3
3	(40)	国語の勉強は好きですか	-5.5
4	(46)	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	-5.1
5	(68)	解答時間は十分でしたか（数学）	-4.7
6	(22)	新聞を読んでいますか	-4.1
7	(69)	解答時間は十分でしたか（英語）	-4.1
8	(62)	1，2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	-3.8
9	(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	-3.6
10	(49)	数学の勉強は好きですか	-3.3
11	(24)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	-3.1

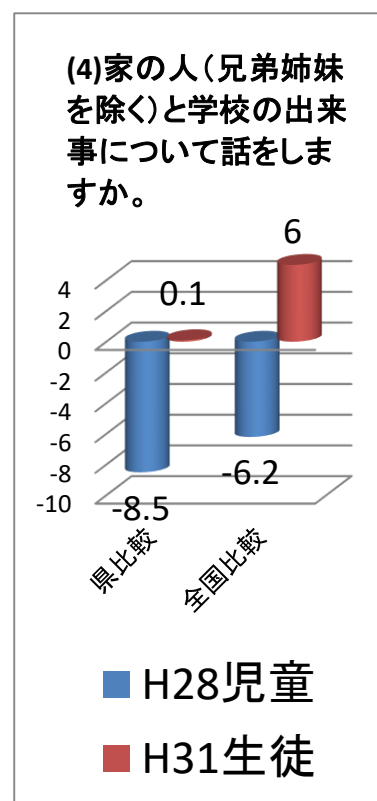
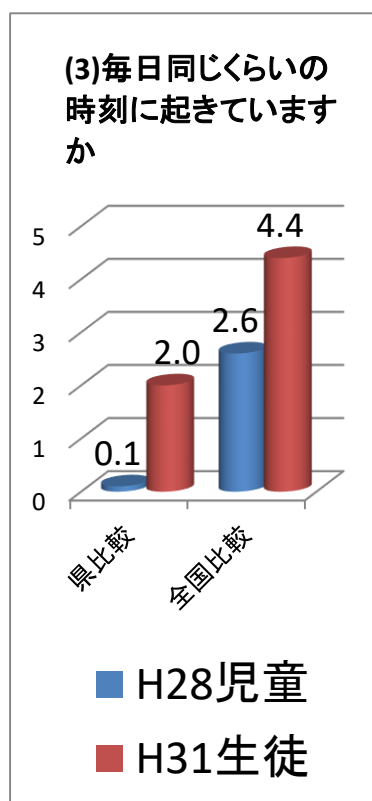
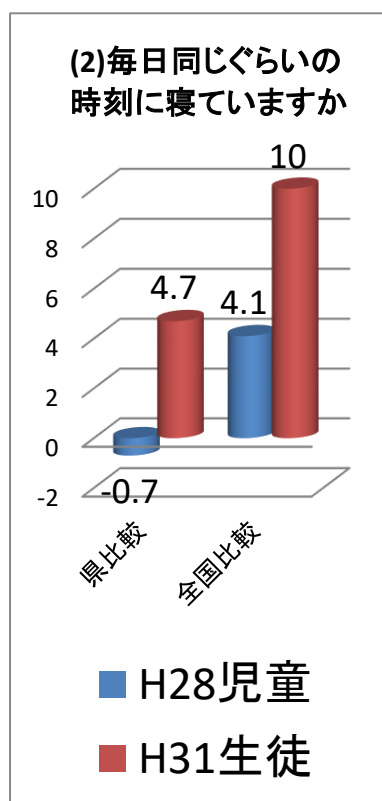
- ◆ 新聞を読んでいる割合は、15.9%であり、前年度と同様に低い。新聞離れに課題が見られる。
- ◆ 自分の考えや気持ちを伝え合うことに課題が見られる。
- ◆ 図書館等を活用し、自分で計画を立てて家庭学習する習慣は身に付いてきている様子が見られる。
その反面、特定の教科を生活の中で活かそうとしていないのが課題となる。
- ◆ コンピュータなどのICTを活用することに課題が見られる。

(6) 現中学校3年生の小学校6年生時との比較による成果

現中学校3年生の、小学校6年生時と比較した際に成果とみられる質問事項を以下に示す。肯定的回答率が前回と比べて上昇し、開きが顕著なものは次の事項である。

NO	質問番号	質問事項	H31生徒	H28児童	経年差
1	(4)	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	82.4	73.0	9.4
2	(45)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	87.4	83.2	4.2
3	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	88.0	84.2	3.8
4	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	97.2	93.4	3.8
5	(13)	学校の規則を守っていますか	97.8	95.9	1.9
6	(14)	人が困っているときは、進んで助けていますか	92.8	91.4	1.4

上記事項に関わる質問事項のうち、秋田県や全国との比較でも肯定的回答率が上昇したのは、次の事項である。



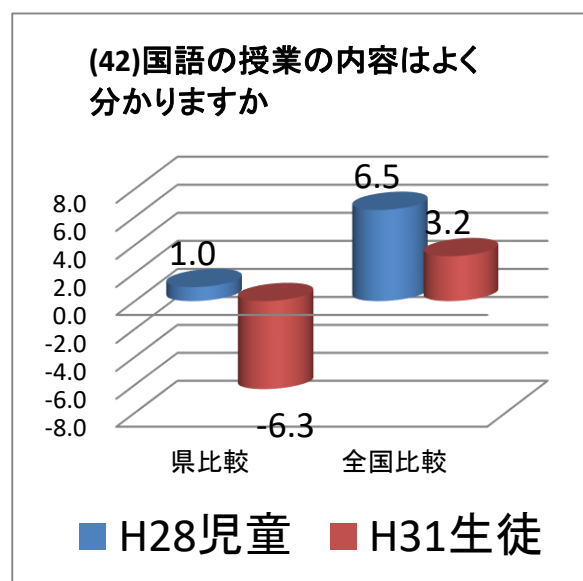
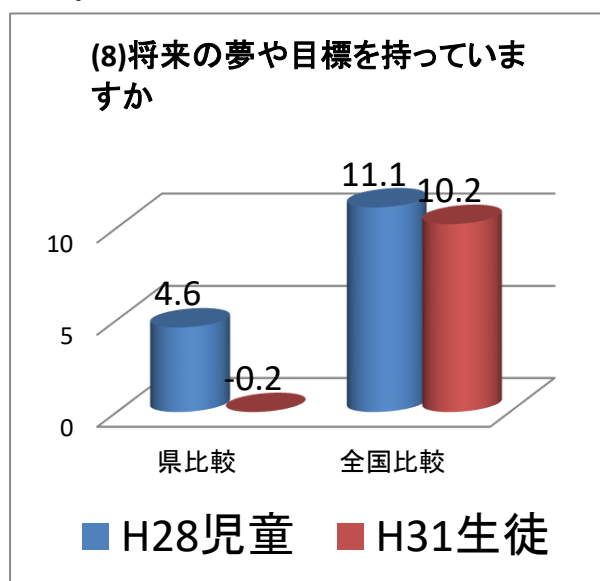
- 「基本的な生活習慣の確立」に成果が見られた。生活指導が充実していたことが読み取れる。
- 「規範意識に関わる意識の向上」に成果が見られた。道徳教育や特別活動の充実が読み取れる。
- 「授業への参加意欲に関わる意識の向上」に成果が見られた。学習活動や諸活動の中で、「主体的な活動」の機会が多く設定されていることが読み取れる。

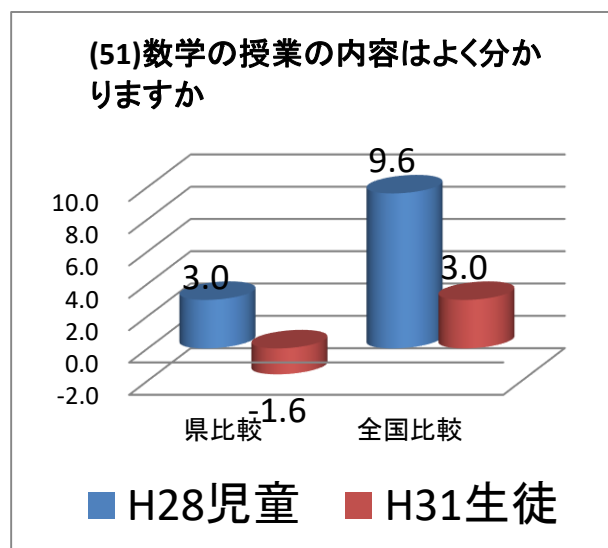
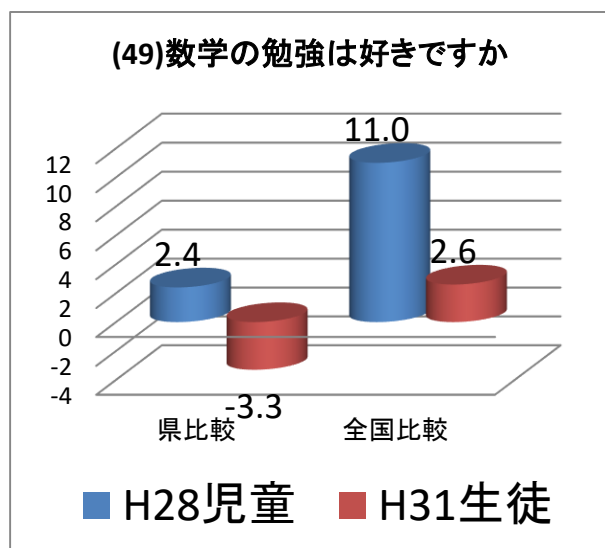
(7) 現中学校3年生の小学校6年生時との比較による課題

中学校3年生の、小学校6年生時と比較した際に課題とみられる質問事項を以下に示す。肯定的回答率が前回と比べて下降し、開きが顕著なものは次の事項である。

NO	質問番号	質問事項	H31生徒	H28児童	経年差
4	(49)	数学（算数）の勉強は好きですか	60.5	77.0	-16.5
6	(8)	将来の夢や目標を持っていますか	80.7	96.4	-15.7
5	(51)	数学（算数）の授業の内容はよく分かりますか	76.9	89.8	-12.9
1	(52)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.0	98.0	-9.0
2	(42)	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.6	87.2	-6.4
3	(10)	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	79.6	85.2	-5.6

上記事項に関わる質問事項のうち、秋田県や全国との比較でも肯定的回答率が下降したのは、次の事項である。





- 「学習に対する興味・関心や授業の理解度」に課題が見られた。「授業への参加意欲」は前述の通り成果として挙がっているが、参加意欲を理解につなげる授業改善を図るとともに、身に付けた知識・技能を活用できる教科横断的な視点での学習活動の設定が望まれる。
- 「将来の夢や目標を持つ」ことに課題が見られた。小中の連携を密にし9年間を見越したキャリア教育の更なる推進が望まれる。
- 「挑戦する心」に課題が見られた。自己肯定感を育てることを意識した授業改善、失敗しても励まし合える人間関係の醸成などが望まれる。

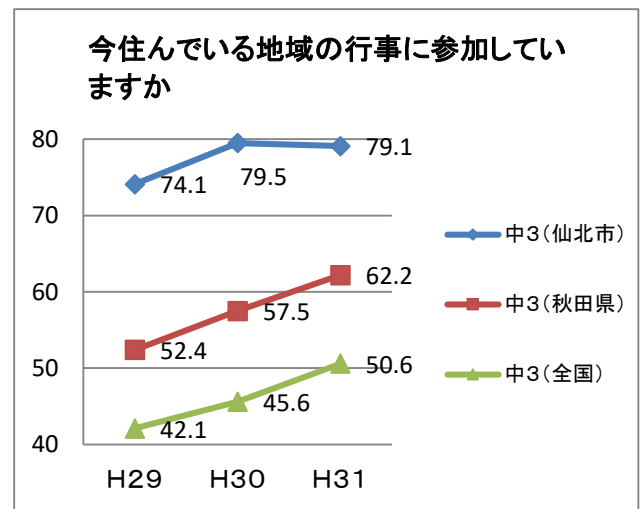
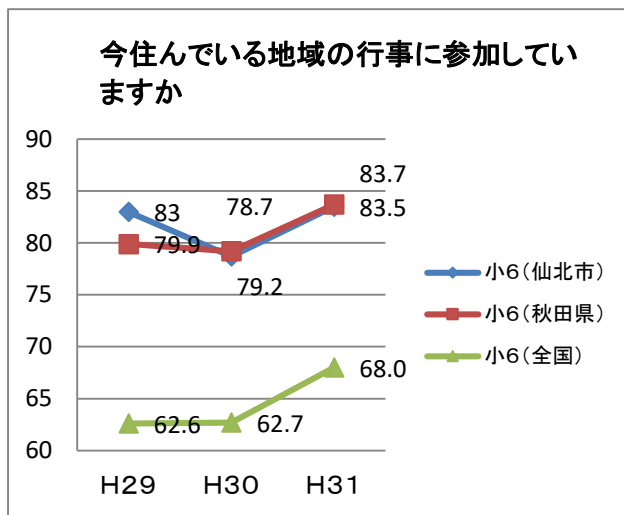
(8) 仙北市学校教育目標に関わる事項の経年比較

仙北市の学校教育目標に関わる「地域・家庭との連携」「自己有用感」「学習への関心・意欲」についての直近3年間の肯定的回答率の変化を次に示す。

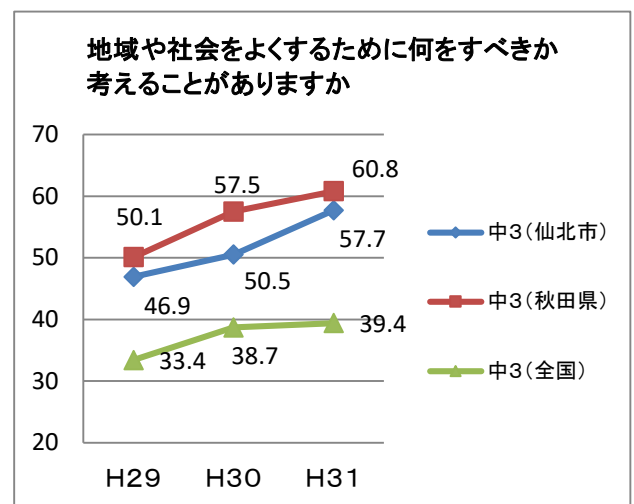
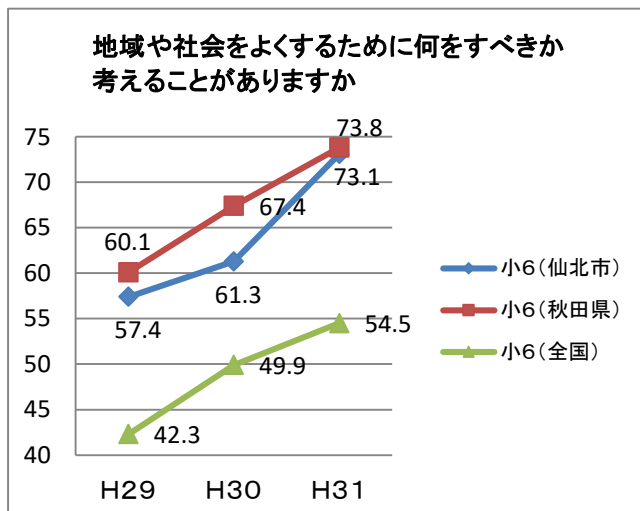
学校教育目標

**「ふるさを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体をもち、
未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」**

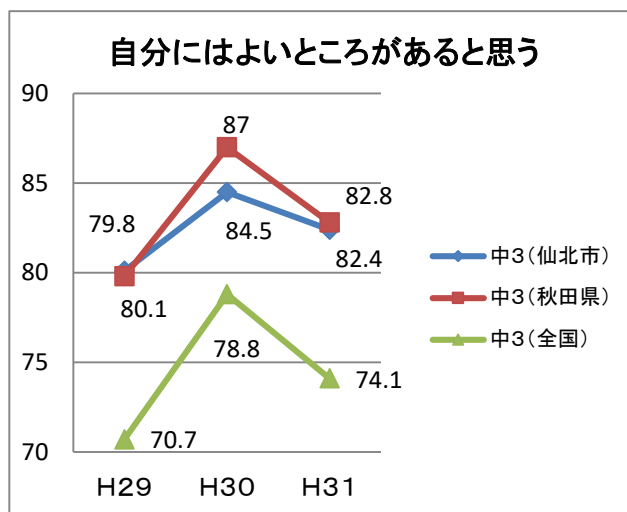
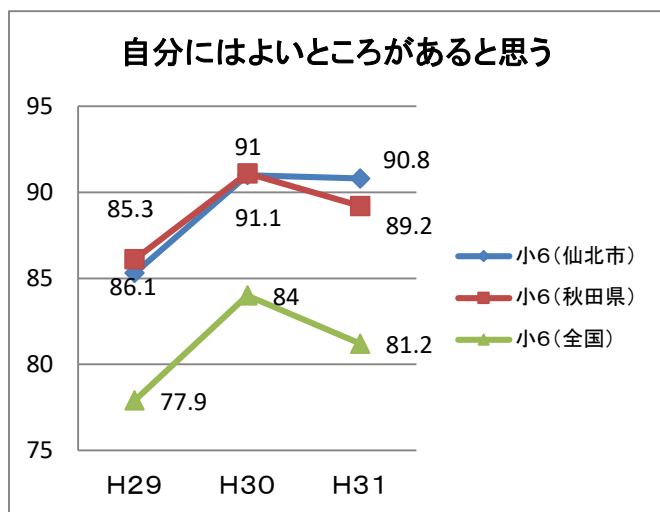
(23) 今住んでいる地域の行事に参加していますか



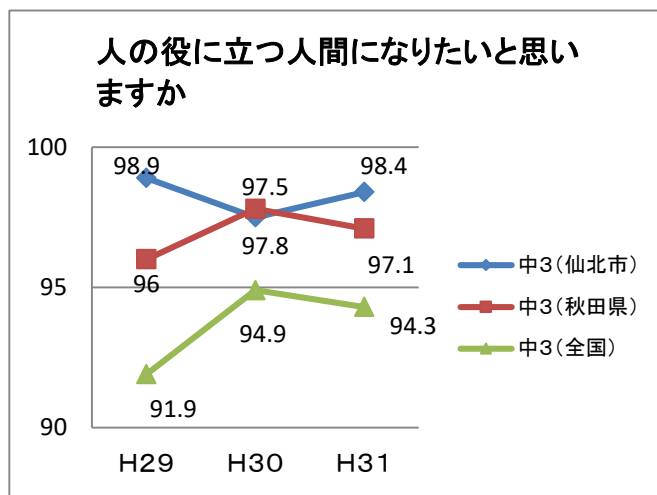
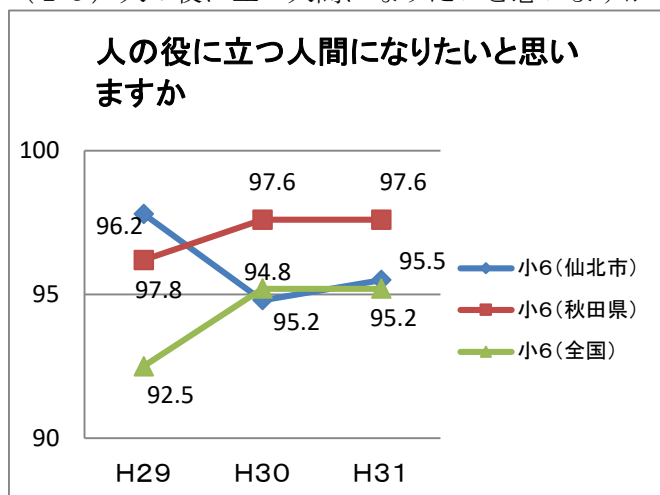
(24) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることはありますか



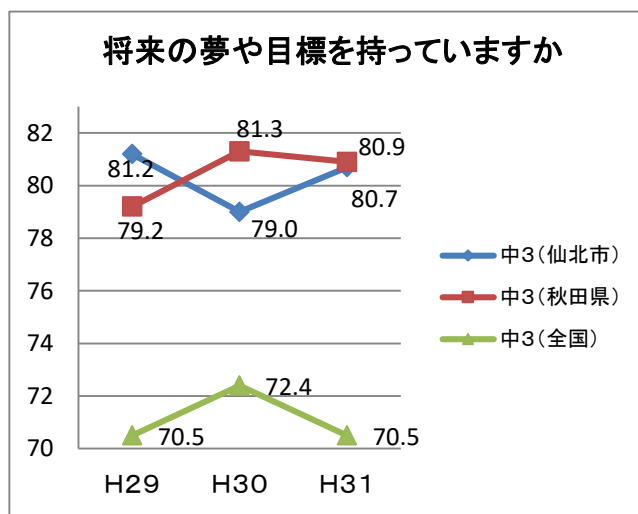
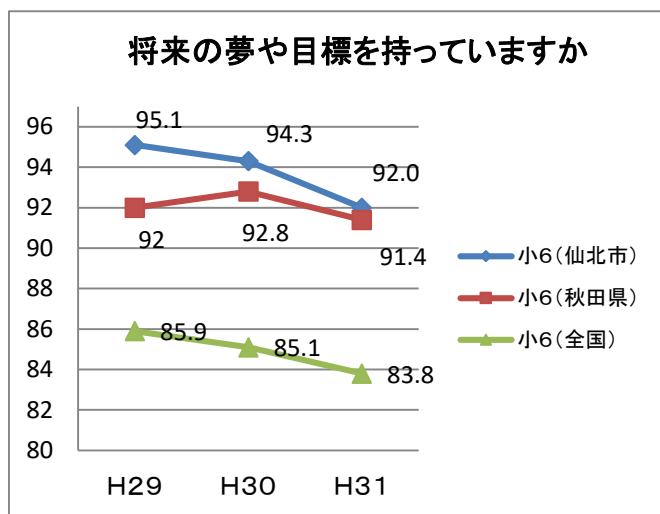
(5) 自分には、よいところがあると思いますか



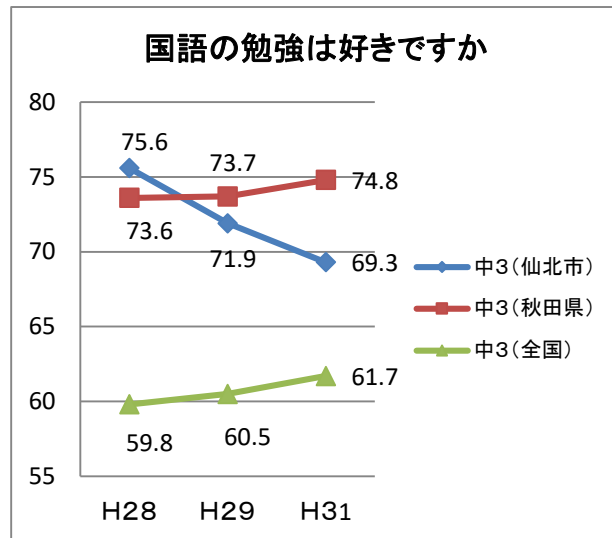
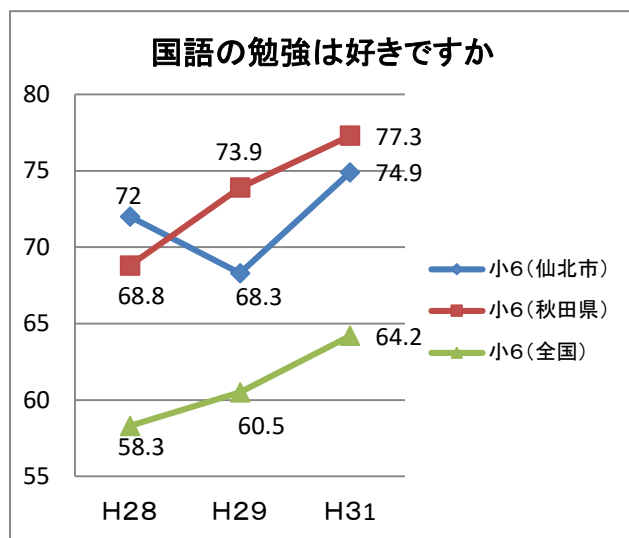
(16) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



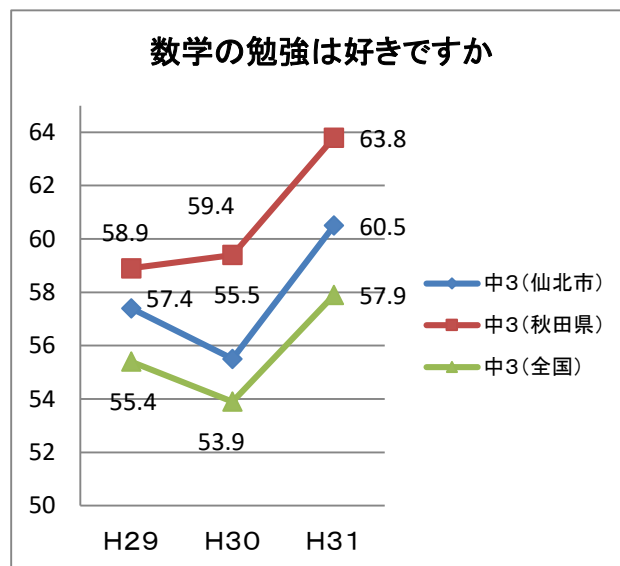
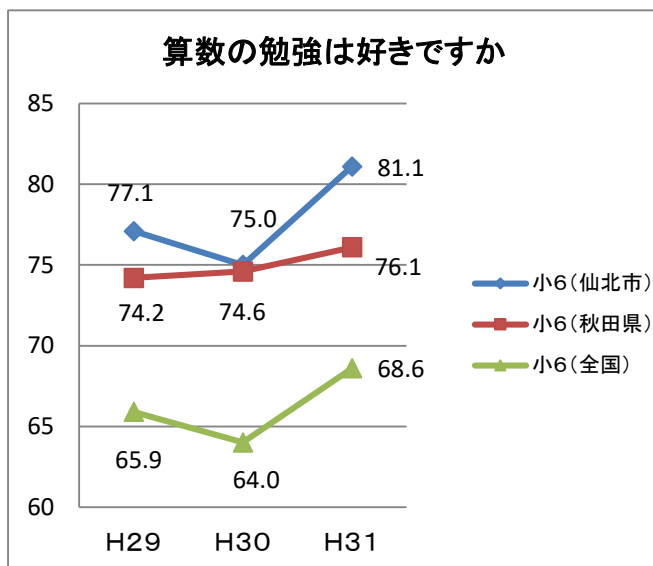
(8) 将来の夢や目標を持っていますか



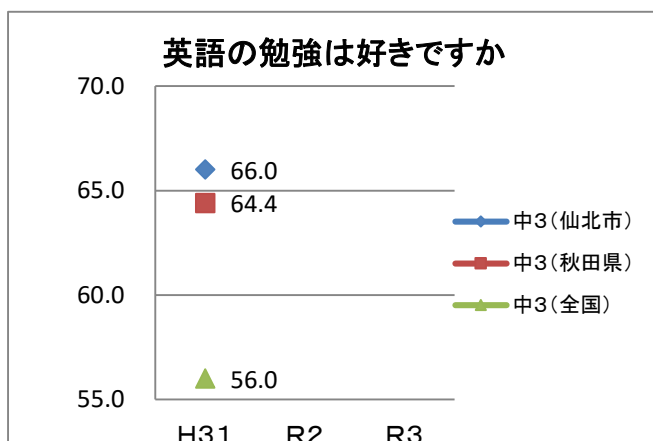
(37)(40) 国語の勉強は好きですか (H30年度の質問項目になし)



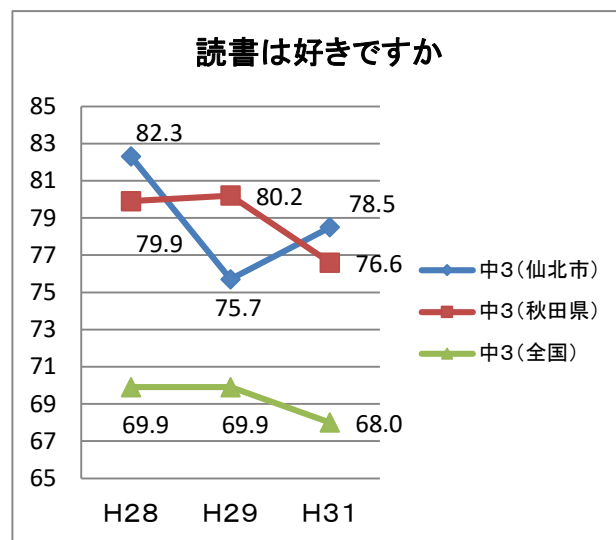
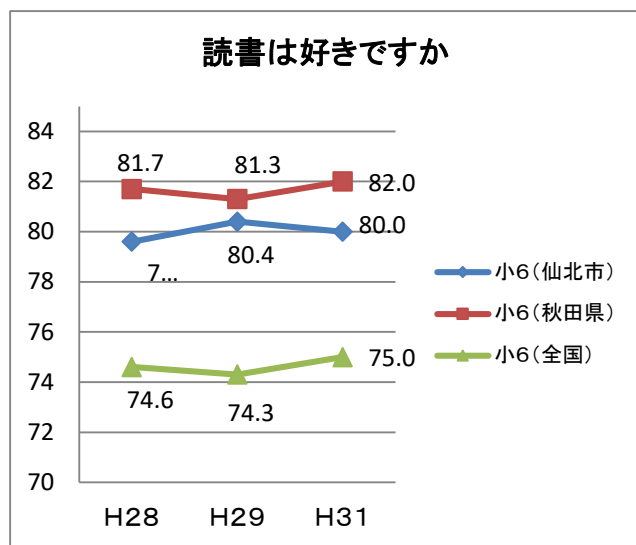
(46)(49) 算数(数学)の勉強は好きですか



(54) 英語の勉強は好きですか (今年度からの質問事項)



(21) 読書は好きですか (H30年度の質問項目になし)



仙北市の学校教育目標に関わる質問事項については、どの項目でも肯定的回答率が高い。各校において学校教育目標を意識して授業等に取り組んでいることが伺える。

特筆すべきは「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的な回答率が国や県と比較して特に高いことである。これは中学校において顕著である。

学習や部活動で忙しい中でも地域の行事にはきちんと参加していることから、地域とのつながりが強く、各学校において充実した「ふるさと教育」がなされていることが読み取れる。

3 学校質問紙調査の結果

(1) 概要

本調査における学校質問紙調査について、肯定的回答率を全国と比較した場合、その開きが顕著な項目を次に示す。

「主体的・対話的で深い学びに結び付く探究型授業の充実」、「地域に根ざしたキャリア教育の充実」及び「全国学力・学習状況調査結果の活用」等が、全国及び秋田県の状況と比較し、積極的に取り組んでいる様子が伺える。

また、「小・中学校の連携」「地域学校協働本部やコミュニティ・スクール」等に課題がみられた。保護者や地域の人との協働による取組は行われてはいるものの、それぞれの活動の連動や仕組みづくりには結び付いていないことが分かる。

学校の児童生徒や地域の実情を踏まえ、仕組みづくりや体制づくりを整備することは、学校・家庭・地域の連携を一層推進し、子どもの成長を継続的に支える一つの視点と考えられる。一層、望ましい学校・教育環境を構築していくことが、検討課題と言える。

(2) 成果と考えられる項目

①小学校で成果と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質問事項	国比較	県比較
(47)調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	17.6	9.7
(11)調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	16.8	3.1
(32)調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	14.5	7.6
(9)調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	12.3	8.1
(10)調査対象学年の児童は、礼儀正しいと思いますか	12.2	6.2
(37)調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	10.7	6.6
(33)調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	10.7	3.6

②中学校で成果と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質問事項	国比較	県比較
(51)調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	24.6	17.4
(47)調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	23.5	14.8
(48)調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	21.9	10.5
(67)平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	20.0	7.9
(55)調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	19.2	12.2
(58)調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	16.5	1.7
(30)学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	15.6	7.8

(3) 今後の検討課題と考えられる項目

①小学校で課題と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質問事項	国比較	県比較
(51)前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	-36.4	-44.9
(57)地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	-22.0	-21.8
(40)調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-19.5	-19.3
(50)学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	-9.4	-5.6

(16) 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	-8.0	-8.2
---	------	------

②中学校で課題と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質 問 事 項	国比較	県比較
(60) 前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか（「よく行った」「どちらかといえば行った」の割合）	-28.3	-25.2
(71) 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	-27.5	-32.2
(73) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	-27.0	-35.6
(19) 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	-15.1	-18.2
(64) 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	-12.6	-11.3

Ⅳ 改善の方法

1 全体的な取組として

本委員会では、仙北市全体の状況を踏まえて、確かな学力の向上と授業改善の方向性について、意見交換を行った。

本調査の結果から、仙北市児童生徒の課題を解決するための指導の改善点について再掲する。

①国語

小学校では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域に課題が見られる。特に「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。」に課題が見られた。間違いやすい同音異義語については、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習を取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができる指導が求められる。

<小学校国語：指導の改善点>

- ◆図表やグラフを用いて効果的に書くことができるようにする。
- ◆自分の考えを支える理由や事例を明確にすることができるようにする。
- ◆文脈に沿って、正しい漢字を書くことができるようにする。
- ◆一文の長さを意識して、分かりやすく伝わるように文を分けて書くことができるようにする。

中学校では、「話すこと・聞くこと」の領域に課題が見られる。「話合いの話題や方向を捉える。」の課題改善のために、「誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのかを理解し、今は何について話し合っているかを捉え、それに応じて話すような指導が大切になってくる。また「相手に分かりやすく伝える」の課題改善のために、「話合いの話題や方向を捉えた上で、話題に対する自分の立場の考えを明確にするとともに、そのような立場や考えであることの理由について話すように指導する指導が求められる。

<中学校国語：指導の改善点>

- ◆参加者全員が話合いの話題や方向を捉えて話し合うことができるようにする
- ◆相手に分かりやすく伝わる表現を用いて話すことができるようにする
- ◆話合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつことができるようにする

②算数・数学

小学校では、「数と計算」の領域に課題が見られる。計算に関して成り立つ性質を見い

だし、表現することができるように指導の充実を図るとともに、数を多面的にみて、計算を能率的にさせることが求められる。

＜小学校算数：指導の改善点＞

- ◆計算の順序についてのきまりを確実に理解できるようにする
- ◆数量の関係に着目し、計算を能率的にするために工夫することができるようにする
- ◆計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする
- ◆数を多面的にみて、計算を能率的にするために工夫することができるようにする

中学校では、「数と式」「関数」の領域に課題が見られる。様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実することが大切になる。

＜中学校数学：指導の改善点＞

- ◆移動前と移動後の図形を比較して2つの図形の関係を読み取ることができるようにする
- ◆日常の事象の特徴を、図形の移動を用いて的確に捉えることができるようにする
- ◆反比例の表から変化や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を式で表すことができるようにする
- ◆具体的な事象について、 x と y の関係を数学的に表すことができるようにする
- ◆樹形図や二次元の表などを利用して起こり得るすべての場合を数え上げ、確率を求めることができるようにする
- ◆確率を用いて不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断することができるようにする
- ◆問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする
- ◆事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにする

③英語

英語に関しては、「書くこと」の領域に課題が見られる。仙北市で課題として取り上げた6つの設問のうち、5つの設問が「書くこと」に関する問題である。

事実やテーマから想起される自分の考えや気持ちなどを整理したメモなどを基にして書き始めることに慣れさせるとともに、教科書の本文を使って文章の構成の特徴を意識させた上で、普段から接続詞や時制を意識させて書く活動を授業に取り入れることが求められる。

＜中学校英語：指導の改善点＞

- ◆まとまりのある英語を聞いて、話の概要を聞き取ることができるようにする
- ◆文の中で適切に接続詞を用いることができるようにする
- ◆場面や状況から文の形式や動詞の形（時制）を適切に判断し、正確に書くことができるようにする
- ◆語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができるようにする

④児童生徒質問紙調査の結果（小学校）

- ◆新聞を読んでいる割合は、21.7%であり、前年度と同様に低い。新聞離れに課題が見られる。
- ◆コンピュータなどのＩＣＴを活用することに課題が見られる。
- ◆起床時刻が不規則な児童が国や県と比べて多い傾向にある。規則正しい生活を送ることに課題が見られる。
- ◆自分の考えを発表したり解決したりしようする意欲において、教科によって大きな差があることが課題となる。
- ◆起床時刻が不規則な児童が国や県と比べて多い傾向にある。規則正しい生活を送ることに課題が見られる。

⑤児童生徒質問紙調査の結果（中学校）

- ◆新聞を読んでいる割合は、15.9%であり、前年度と同様に低い。新聞離れに課題が見られる。
- ◆自分の考えや気持ちを伝え合うことに課題が見られる。
- ◆図書館等を活用し、自分で計画を立てて家庭学習する習慣は身に付いてきている様子が見られる。その反面、特定の教科を生活の中で活かそうとしていないのが課題となる。
- ◆コンピュータなどのＩＣＴを活用することに課題が見られる。

（１） 指導改善の具体策

教科に関する調査、児童生徒質問紙から見えてきた仙北市の課題を解決するために、それぞれの部会で出された具体策を次に示す。

＜①小学校国語部会で出された具体策＞

- ・ 同音異義語を意識させて指導し、漢字を使って書く活動の充実を図る。
- ・ 意図に沿って、効果的に伝えるためには、どんな資料が必要かを選ぶ力を育てる。
- ・ 指示語に着目させ、文脈に沿って的確に理解できる授業活動を展開する。
- ・ 新聞（子ども新聞等も含む）を子どもの目の触れる場所に置き、新聞に慣れ親しませる。

＜②中学校国語部会で出された具体策＞

- ・話し合いをする際の基本的なスキルを身につけさせる。
- ・誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのかなどきちんと押さえる
- ・話し合いの際には、メモをとらせるなど、全員に方向性を捉えさせる
- ・他教科と連携して、身に付けた力をどう発揮できるかをふり返りに入れてもらう。
- ・自分の考えを文章にしてまとめさせ、それをもとに友だちの発表を聞くことができるようにする。
- ・友だちの考えに対して、同意したり批判したりしながら聞かせ、その理由を共有化させる。
- ・話したい！聞きたい！と思えるような、必要感を持たせる場作りをする。

＜③小学校算数部会で出された具体策＞

- ・四則演算の規則を理解させ、ドリル学習を繰り返すとともに、場面と式とを関連付けた指導をする。
- ・自分の考えを書く活動を通して、自分の考えをしっかりと持たせる。
- ・まとめは、課題の答えになるように、自分で考えさせ、自分の言葉で書かせる。
- ・既習事項と関連させた指導を行うとともに、
- ・友だちの解法の仕方を読み取って、説明する学習活動を展開する。
- ・「問題場面の読み取り⇒意味づけしながらの立式⇒自分の言葉でまとめる⇒練習問題＋発展問題を解く」を普段の学習で意識しながら取り組む。

＜④中学校数学部会で出された具体策＞

- ・正確な計算ができるようにドリル学習をさせる。
- ・既習事項をしっかりと定着させるために、関連単元を学習する際、復習する機会を設ける。
- ・式やグラフ等を用いて、根拠を明らかにして説明させる活動を通して、その質を高めていく。
- ・身の回りの事象における問題解決に、学んだ数学を活用する方法を考えさせ、それを説明する機会を設ける。
- ・個に応じたステップを設定し、「自分にもできる！」という自信を持たせる。
- ・日常で用いられている数学を紹介し、数学に対する興味や意欲を高める。

＜⑤中学校英語部会で出された具体策＞

- ・話の概要を聞き取るために必要な背景知識を習得させるため、単元等で触れる機会を設ける
- ・時制を理解させるために、英語で日記を書かせる。
- ・文脈を考えながら、文と文をつなぐ接続を意識して書かせる。
- ・ifやbecauseを必ず使う場面設定をし、文を作らせ、接続詞を使えるよう

にする。

- ・文脈をしっかりと理解し、語と語のつながりを意識できるようドリル学習を繰り返す。

＜⑥小学校研究主任会で出された具体策＞

- ・子ども達の問題文への理解能力を養うため、豊かな言語活動を授業に取り入れ、語彙を増やす。
- ・朝の会で日直が気になった新聞記事を紹介するなど、新聞を教育活動で活用する。
- ・国語辞典を使う機会を増やし、言葉の意味を正しく捉えさせる。
- ・統計データ、グラフ、表、地図帳などを活用し、理由をはっきりさせて説明する機会を増やす。
- ・言語活動を充実させるなど、考えを深め合える場作りをする。

＜⑦中学校研究主任会で出された具体策＞

- ・課題を与える日を設け、習慣化を図るなど、計画的な家庭学習を促す工夫をする。
- ・気になった新聞記事を、日直が他のクラスで発表するなど、新聞に親しませる。
- ・問題解決能力を総合的な学習の時間で鍛えていく。
- ・昔は、生活の中から自然に学んでいたことが、今は学校が意図的に経験させないと学べない状況である。子どもに必要感をもたせながらそのような経験をさせることが必要である。

（２） 仙北市学力向上施策の焦点化

今年度、仙北市学力向上施策として示した具体的方策は次の通りである。

- | |
|--|
| (1)児童生徒の姿から、身に付けさせたい力を明確にした単元構成による授業の推進
(2)思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫
(3)児童生徒の問いを生かした探究型授業の一層の推進
(4)基礎・基本の定着を図る指導方法や指導体制の工夫
(5)基本的生活習慣の更なる改善と家庭学習の充実 |
|--|

この5つの方策について、今後特に力を入れて取り組むべきものを7部会から選んでもらった。どれも仙北市の課題を解決するためには大切であるが、その中でも5部会から力を入れて取り組みたいと出されたのが次の方策である。

- | |
|----------------------------|
| (2) 思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫 |
|----------------------------|

(3) 各中学校区の情報交換から

各校の課題及びその改善に向けた取組について、中学校区毎に情報交換を行った。共通する成果、課題を洗い出し、課題に対しての対応策を話合った。

全ての中学校区から課題として出されたものが「言語活動に関するもの」だった。

ここでも「言語活動の指導の工夫」が必要であることが明らかとなった。

(4) 共通実践すべき具体的方策

先述の結果を踏まえ、仙北市内小中学校で共通理解の上で共通実践すべき方策を

(2) 思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫

とする。

また、昨年度共通実践した

「『校種』を超えた小・中連携による共同研究の推進」

が、今年度の調査結果に多くの成果を残していることから、引き続き実践していきたい。

同一中学校区での研修や研究、情報交換等による義務教育9年間の系統的・段階的な指導の更なる充実を目指すとともに、「共通で目指す子どもの姿」、「共通で取り組んでいること」を可視化するなど明確にしてその実践を継続していく。

2 学年・教科・区分・設問ごとの具体的な改善の方策

学年・教科・区分について設問ごとの結果から、改善のために検討の余地があるものについては、次の資料等を活用して、課題解決を目指す必要がある。

- 「2019年度学校改善支援プラン」〈平成31年3月 秋田県検証改善委員会〉
- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査【小学校国語】報告書」
- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査【小学校算数】報告書」
- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査【中学校国語】報告書」
- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査【中学校数学】報告書」
- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査【中学校英語】報告書」
- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査【質問紙調査】報告書」
〈令和元年7月 文部科学省 国立教育政策研究所〉

- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
【小学校国語・算数】【中学校国語・数学・英語】
〈令和元年9月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

- 「平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた
学習指導の改善・充実に向けた説明会」説明資料
【小学校国語・算数】【中学校国語・数学・英語】
〈令和元年8月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

- 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力の育成に向けて～」
【小学校版】 〈平成22年12月 文部科学省〉
【中学校版】 〈平成23年 5月 文部科学省〉

- 「学習評価の在り方ハンドブック」
〈令和元年6月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

1 地域の人材活用の仕組み作りと財政的支援

仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用及び特色ある取組について、一層の支援を行う必要がある。

本市教委では平成20年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民を「バックアップチーム」として登録し支援している。今後も小・中学校において、授業場面での活用や授業サポートとしての活用を行い、事業を充実させていく。

また、平成25年度からは、各学校の特色ある「ふるさと教育・キャリア教育を推進する取組」や教材の充実に対し一層の財政的な支援も実施している。平成26年8月には「キャリア教育の視点を重視したふるさと教育」指導資料として冊子「ふるさと仙北学」を発行、各校に配布した。平成27年12月同冊子を増刷し、各校に配布した。ふるさと教育を基盤とした取組の充実が児童・生徒の生きる力、地域社会における自己有用感の育成につながるようさらに働きかけていく。

さらに、地域学校協働本部の設置を目指し、学校・家庭・地域総合推進事業を立ち上げ、地域人材活用の仕組み作りに現在取り組んでいる状況である。

2 北浦教育文化研究所研究委員会の充実について

上記Ⅳ－2の各種資料については、各学校の研修における活用とともに、研究委員会での研修内容として取り組むことが必要と考える。研究委員会の組織の見直しと併せ、各校の充実した取組に効果のある研究委員会の開催を目指す。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日
教育委員会告示第19号

最終改正 令和元年10月教育委員会告示第22号

(目的)

第1条 この要綱は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1) 「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2) 「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。
- (3) 「別表1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。

- (4)「別表 1」の「4」については、公表する。
- (5)「別表 1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6)「別表 1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第 4 条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3)改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4)その他

(結果の公表の方法)

第 5 条 第 3 条に示す公表の内容及び第 4 条に示す改善策は、仙北市教育委員会北浦教育文化研究所において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第 6 条 仙北市情報公開条例第 7 条 6 号を根拠として第 3 条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成 19 年 12 月 20 日から施行する

附則

この告示は、平成 26 年 11 月 28 日から施行する

附則

この告示は、令和元年 10 月 1 日から施行する

(別表 1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第 3 条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「*四分位層」…成績の上位から 25%のきざみで 4 つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表 2)「(別表 1) の 1 及び 2 の公表に係る階層区分と表現」(第 3 条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 未満～-6% より大きい状況であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6% 以下であるもの	改善が必要な状況

資料2

平成31年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿

	委 員 氏 名	備 考
1	伊 藤 範 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（角館小学校）
2	佐 藤 知 栄 美	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（中川小学校）
3	鈴 木 操	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（白岩小学校）
4	小 松 大 貴	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（生保内小学校）
5	鈴 木 久 美 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（神代小学校）
6	小 松 智 加 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（西明寺小学校）
7	木 元 志 帆 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（桧木内小学校）
8	島 田 喜 利 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（角館中学校）
9	佐 藤 義 紀	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（生保内中学校）
10	芦 沢 雅 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（神代中学校）
11	後 藤 春 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（西明寺中学校）
12	高 橋 果 緒 里	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（桧木内中学校）
13	高 橋 猛	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（角館小学校）
14	千 葉 仁	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（中川小学校）
15	佐々木 潤 一	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（白岩小学校）
16	鎌 田 真 寿 美	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（生保内小学校）
17	佐 藤 有 紀	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（神代小学校）
18	大 澤 ハ ル ミ	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（西明寺小学校）
19	築 友 章	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（桧木内小学校）
20	三 浦 誠	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（角館中学校）
21	松 井 知 則	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（生保内中学校）
22	門 脇 昭 成	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（神代中学校）
23	藤 田 千 秋	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（西明寺中学校）
24	藤 川 重 光	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（桧木内中学校）
32	広 瀬 文 夫	北浦教育文化研究所 外国語活動・英語学習指導研究委員（角館中学校）
33	佐 藤 美 香	北浦教育文化研究所 外国語活動・英語学習指導研究委員（生保内中学校）
34	佐々木 治	北浦教育文化研究所 外国語活動・英語学習指導研究委員（神代中学校）
35	草 薙 恵 美 子	北浦教育文化研究所 外国語活動・英語学習指導研究委員（西明寺中学校）
36	長 沼 悦 子	北浦教育文化研究所 外国語活動・英語学習指導研究委員（桧木内中学校）
37	竹 村 一 郎	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（角館小学校）
38	武 部 厚	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（中川小学校）
39	今 野 俊	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（白岩小学校）
40	渡 邊 圭 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（生保内小学校）
41	高 橋 説 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（神代小学校）
42	津 村 義 章	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（西明寺小学校）
43	池 田 美 香 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（桧木内小学校）
44	島 田 喜 利 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（角館中学校）
45	広 瀬 尚 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（生保内中学校）
46	芦 沢 雅 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（神代中学校）
47	佐々木 勝 利	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（西明寺中学校）
48	山 口 ひ と み	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（桧木内中学校）
49	米 澤 孝 子	北浦教育文化研究所 研究委員
50	伊 藤 昭 光	北浦教育文化研究所 研究委員
51	門 脇 貴 一 郎	北浦教育文化研究所 研究委員